

みやこづか

都塚古墳

1.はじめに

都塚古墳は奈良県高市郡明日香村大字阪田小字ミヤコ938番地他に所在する後期古墳です。正月元旦には金鳥が鳴く金鳥伝説があり、別名金鳥塚とも呼ばれています。

古墳の周辺は6世紀から7世紀にかけて、蘇我馬子ら蘇我一族の本拠地でした。また、司馬達等が坂田原に草堂を建て、その子鞍作多須奈が用明天皇の病氣平癒を祈願して建てたとされる坂田寺や蘇我馬子の墓とされる石舞台古墳、さらに蘇我馬子の邸宅とされる島庄遺跡、大海人皇子や持統天皇が吉野へ訪れる際に通った古道など、飛鳥時代の幕開けに重要な役割を担った遺跡が広がる地域でもありました。

都塚古墳は1967（昭和42）年には関西大学文学部考古学研究室（代表網干善教）により発掘調査が行われ、玄室内には凝灰岩製の家形石棺と棺台の存在から木棺が追葬されていたことが明らかとなりました。出土遺物には土師器・須恵器・鉄製品（刀子・鉄鏃・鉄釘・小札）などがあります。昭和42年の調査では墳丘部分の調査は行われていなかったことから、都塚古墳の全貌解明に向けた範囲確認調査を関西大学文学部考古学研究室と協同で平成25年度から2カ年で調査を実施しています。

2.検出遺構と出土遺物

【墳丘と外部施設】

墳丘は南から伸びる尾根上に位置しています。墳丘は礫などで構成された基盤層を整形した方墳で、最下段の法面には川原石を施しています。さらに上部の墳丘部分は段状にした石積みが行われています。この段状の石積みは四段分確認していますが、さらに数段増えるものと推定されます。規模については東西の調査区と北側の調査区で墳丘裾部を検出しており、これをもとに復元すると東西約41m、南北約42m、高さは4.5m以上、西側の見かけの高さは7m以上に復元することができます。墳丘北側の裾部には幅1～1.5m、深さ約0.4mの周濠があり、北側の法面には人頭大の石材で護岸を行っています。

【埋葬施設】

埋葬施設は石英閃緑岩（通称、飛鳥石）を使用した南西に開口する両袖式の横穴式石室です。規模は全長12.2mで、玄室長は5.3m、幅2.8m、高さ3.55mです。羨道長は6.9m、幅1.9～2.0m、高さは約2mを測ります。玄室の中央には二上山の凝灰岩を使用したくりぬき式の家形石棺が安置されています。石棺の規模は棺身の長さ2.23m、幅1.46m、高さ1.08mで、内法は長さ1.74m、幅0.82m、深さ0.65mを測り、石棺の総高は1.72mあります。玄室内には暗渠排水溝が設けられています。

【出土遺物】

土師器・須恵器・瓦器などが出土しています。

3.まとめ

今回の調査では都塚古墳の墳丘の規模や構造を明らかにすることができました。今回の調査成果と昭和42年の成果をまとめると、①墳丘は南から伸びる尾根上に位置しています。②墳丘の規模は東西約41m、南北約42mの方墳です。③墳丘の外観については段状の石積みが施されており、他にあまり例のないものです。④埋葬施設については両袖式の横穴式石室で玄室中央には家形石棺が安置されています。⑤築造時期については6世紀後半頃と考えられます。

このように、今回の成果は都塚古墳を解明する上で貴重なデータを提供しており、飛鳥文化を甞生えさせた飛鳥前史を語るうえで、重要な位置を占めています。

都塚古墳

2014年8月

明日香村教育委員会
関西大学文学部考古学研究室



- ① 都塚古墳 ② 石舞台古墳 ③ 塚本古墳 ④ 島庄遺跡
- ⑤ 坂田寺 ⑥ 打上古墳 ⑦ 伝飛鳥板蓋宮跡 ⑧ 飛鳥寺

